
エンジェレラ

上森 織夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エンジエレラ

【Nコード】

N7406J

【作者名】

上森 織夜

【あらすじ】

異世界の二大勢力である天界と魔界が、二千年以上の長きに渡る対立関係が続けていたある日。

天界の第十六代の王・ゼフィールは孤独の子供を引き取る。ゼフィールと幼なじみを庇って滅んだ、年の離れた弟に似ていた彼を次代の王として育てるべく。

一方、魔界では五十年に一度の『導き』が迫っていた。

天界を打破できる初代魔王を復活させる為に、必要な儀式。選ばれし三体の天使と一体の悪魔が揃えば復活する。

前回の導きで二体の天使は既に揃ってしまい、復活を阻止しようと、ゼフィールは部下と共に魔界へと乗り込んでいく。弟を失って以来、初めて動き始めた、穏やかな“今”を守りたいという本当の感情の為に。

歴史書（前書き）

当作品は、ムーンライトノベルズに投稿「エンジニア」の年齢制限なしバージョンです。

六年以上前に、某メールマガジンにて執筆配信していた小説です。今の自身では、小説とは思いたくない当時の文章に、少しは大人になった今、全体的に書き直しました。

今より豊富なネタを思いついていた幼かった頃に、本当は書き上げていた筈の物語。メインストーリーどころか、主人公の幼い頃の話の数分の一しか進まずに放置して、とうとう完結できませんでした。主人公が大きい所から話が展開し、様々な出来事の後に終幕させる筈でした。それが、こんな事になるなんて。

ちよつとした弾みで主人公の幼い頃から始めたら、物語がかなり大きくなくなってしまい、当初の物語から大幅にかけ離れてしまいました。主人公の親代わりが、主人公になってしまう程に。

……自分でも忘れる事がある多さの設定に、進めば進む程に多くなるキャラクター。收拾がつかなくなるだろうとは思いつつも、愛着のある世界観（物語）を捨てる事は出来ませんでした。

やる気が最高に湧き上がった今、再び物語を綴っていききたいと思います。愛しい子達キャラクターの世界を覗いてあげてください。

歴史書

人間>ヒト<とは全く似て真には似つかぬ、異なる人種の存在する場所が、この世界にはある。

人間の世界とは異なる世界があると、信じは想像し、思い描いてはいつの間にか天国Ⅱ楽園>パラダイス<と云うイメージを定着させた人々は、別の世界をこう呼んだ。

『異世界、と……』

実のところ。

人間>ヒト<から云うと『異世界』——正確には人間の世界ではない、別の世界の集合体である次元（人間の世界以外の全ての世界の在りし空間）の事を言うのだが……には、魔界、天界などの多くの異界が存在する。

魔界や天界などの世界の事を別称、異界と呼び、それらの異界をひつくるめて呼んだ、または異界全てが存在する世界が異世界である。

異世界は人間の世界を中心、全界（人間の世界を含めた全世界自体の意）の柱として地理的、存在的にも位置しており、全界自体は一つの世界としても機能している。

人間の世界にも国名がある様に、異界にも異界名と同じ意、効力を発する国名が存在した。

異界の中でも有数の力、存在力、政治力など全てに於いて最強に等しい代表的各が、魔界・天魔国てんまと天界・地神国ちしんである。

魔界・天魔国と天界・地神国は、互いに互いを相当の敵視化しており、日々争いは勿論、侵略、支配下、捕虜化は絶えず止むことなく続いていた（侵略、捕虜化は主に魔界・天魔国だが）。

異界の中で唯一、人間の世界と行き来が出来るのもこの二つの国だけであり、人間の世界を己の物にしようと、もくろんで止まぬ魔界・天魔国に、そうは為せまいと、天界・地神国は相当の注意と犠牲を払ってまで対抗、守護をしていた。

人間の世界の住人は、異世界には悪魔と天使が存在すると、噂した――

天界は『神界』^{しんかい}とも呼ばれ、第16代神王・ゼフィールの下、計七つの階級（俗に云う部署）^{しんおう}が置かれている。

その階級のトップの『神王閣下』^{しんおう}と呼ばれる者が各階級の指揮を任されていた。

その階級とは、地位順に王宮位（おうきゅうい）（神王・皇族の守護警備、国の政治関係担当）・文易位（ぶんえきい）（大戦時の策、天界の学問関係担当）・魔法位（まほうい）（魔法の会得、使用など魔法関係担当）

守護位（しゅごい）（国内外の守護警備、治安担当）・領易位（りょうえきい）（国内の全ての土地の管理、異国との貿易・国交担当）・法務位・監査位。^{ほつむい}^{かんさい}

以上の七階級だが、法務位と監査位は王宮位・文易位・魔法位の者にしか知らされず、それ以下の階級と住人には存在自体も、一切知る者は居ない。

――謎と闇に包まれた二つの階級……その全ては一切不明である。

異世界には複数の世界があり、それぞれに絶大な指導力を手にする者、王が居た。天魔国の王である魔王と地神国の神王は、世界の理である闇と光を象徴する存在として、国民は勿論、各国の者達から崇められてきた。

初代魔王のフェレナ、初代神王のアネレス。二人は世界の創世者とも呼ばれ、彼らの亡き後、二千年経った現在でも、その意志は強く引き継がれている。

西暦の次元に突入し、進化ではなく衰退を辿りつつある地球の裏で、異界は闇に紛れる様に佇んでいた。

初代の神王が亡くなった後は、彼の弟のシャルーンが第二代神王として就任する。その百年後、シャルーンは文易位・神王閣下のハルに地位を譲り、誰にも看取られる事なく消滅した。そのハルは、神界歴380年に起きた異界大戦で命を落とし、彼女の後は王左のラキアスが継ぐ。

時は進み、神界歴1940年。第15代神王ゼマンドが亡くなり、初代神王のお告げにより当時10才であったゼフィールが神王の座を手にする。

皇族とはいえ、肉体の寿命が存在しない天界では生まれたばかりの赤子に等しい少年が神王の座に就くことを反対し、それによって第一次国内大戦が勃発。

神王の座に就いて間もないゼフィールは、得意の策略を大々的に展開して着々と賛成派を集めていき、実際の攻防戦を展開させる事なく国内大戦を終結させた。その後は神王として国を治め、暫くの平穏な時が過ぎていく…。

一章 / 全ての始まり

国内大戦から時は流れ、天界はこれまでの歴史の中では珍しく平穏に満ち溢れていた。

一般の階級の天使の部屋に比べ、数々の豪華な装飾の洋室。黒革のソファアーに背中を預けて、ゼフィールは書類に目を通していた。

このまま何事も起きなければ良いと、王として国の平穏を祈る。ガラスのテーブル一面に広がる書類の束に、些か眉をひそめた。

腰の位置で揺れる、鮮やかな金髪のアトレート。中央で分けた前髪から覗く、神王に代々受け継がれるシルバーの額飾り。

絹で仕立てられ、貴族特有の宝石による装飾のない衣服は、ゼフィールの謙虚な性格を表していた。

くるぶしまでの長さで、形はワンピースに近い。鎖骨を見せ肩から身を覆い、袖幅に余裕を持たせた。手首の箇所にはゴムを入れ、フィットするようになっていた。

腰部分は絞られ、上半身の両サイドには編み上げ。臍の位置から真っ直ぐに入ったスリットからは、白色のスラックス、茶色のショートブーツが見える。

閲覧した書類に『Z e f e e l』と刻印された、手のひら程のスタンプを赤色で次々に押印していく。

平穏な天魔国で、普段通りの国務を行うゼフィールの日常は、爆音と共に破壊された部屋の扉と同時に終了した。

「いったい何事ですか！」

平穏な筈の国内で、更に神王の部屋の中で、果ては器物破損に声を荒げる。上がる硝煙に、無防備にも入口に近づく訳にはいかなかった。

遠目から見ても、判断出来るもの。無惨に散らばった扉の残骸に、モクモクと上がる煙。

人間界であれば消火器という手段があるが、天界では存在しない。“火”という要素を魔法で消失させる。

火の構成物質である火事には、対処できても、煙に対しては魔法対象の要素がなく、対処ができない。

よって、人為的による扉の修繕作業が必要になる。

天界では、人間界と同じように国家予算が存在し、費用が発生する。

有能なのに天界一の節約家で有名な己の秘書に、どれだけどやされるのかと、ゼフィールは頭を抱えなくなった。

神王の部屋からの爆音に気付いた、おつぎ王宮位の階級＞部署＜。

すぐさま王宮位トップ神王閣下で、ゼフィールの秘書である、ルーマスを神王の部屋に駆け付けさせた。

8

王宮位は、神王の部屋に別れる廊下への分岐の側に構えてある。

王宮位から全力疾走すれば、距離は十を数える間もなく辿り着く。

ルーマスは天界の中では若い世代で、人間で言えば就職活動中の大学生に近かった。

ゼフィールが生まれたばかりの頃。ルーマスの世代は、天界での就職活動の真っ只中。

ルーマスの両親は、魔界との境界線にある危険地域・アンダーグラウンド出身。アンダーグラウンド出身者は、最下級階層でもある。

最下級階層は、どんなに能力があろうとも、一般人の就く公的な職には大部分の者が許されなかった。国の政治の勝手が分からない、初代神王の残した奴隷制度の名残だ。

いくら望んでも、欲しい身分は手に入りはしない。奴隷制度の名

残も消えはしない。

王宮位に就職できる程の実力と、頭脳を持ちながら。職にはありつけず、お金持ちの屋敷の手伝いという名の奴隷を、続ける毎日。日々を繰り返す内に、ある幼い少年が、新たに16代目の神王に就くという噂が流れた。

幼い少年が神王に就けば、お飾りの操り人形にされるだけで、世の中が代わる訳でもない。新たな神王への期待は皆無に近かった。

第16代神王就任の反対派による、第一次国内大戦が勃発。避難準備をする、貴族や一般階級の天使の中。

ルーマスは自分よりも遥かに幼い少年が、少人数の賛成派を率いて。武装する大勢の反対派と、勇敢にも対峙するのに、間近で直面した。

大人をも唸らせる立派な論説で、反対派に誇示する幼いゼフィールに、ルーマスは心を強く打たれた。

（あの子なら……この国を代えてくれるかもしれない！）

ルーマスはとても勘が鋭い。

特定の人物を全て滅させる禁忌の魔法を発動させようとした、反対派に一早く気付くと、身動きを封じる魔法で発動を中止させ、ゼフィールの身を守った。

翌日には第16代神王の就任が公式に発表され、神王の名により天界永劫に渡る、奴隷制度の一切の禁止令が発令された。

ルーマスはゼフィール直々に、神王の秘書として王宮に招かれた。神王の秘書としての権限は、神王の生涯で、ただ一人にしか与えられない。

神王の秘書は王宮位のトップ・神王閣下も兼任し、全ての階級の責任者に位置する。

天界初の最下級階層からの階級入りが、誕生した瞬間。それと同

時にルーマスは、まだ幼いゼフィールの子守役まで、強制的に押し付けられたのだった。

「ゼフィール様、いかがされましたか！」

焦りの声が、爆音に混じり甲高く響き渡る。低すぎず高すぎず、中性的な声はルーマスのもの。

七三分けの前髪に、項までの長さの黒髪。元々から色素の薄い白肌を際立たせて、その身を包むのは黒の軍服。

一寸の隙も見せず、立て襟のダブルボタン仕様に茶色のロングブーツ。

声に似合わず、爽やかな好青年で人望も厚く、部下からの評判も良い。

中の上レベルといった端整な顔が、シルバーグレーの瞳を顰める。扉の残骸を踏み場に、ルーマスは普段は穏やかな眼差しから一切の表情を消し、硝煙の中で主の姿を探した。

「何事か尋ねたいのは、私の方ですよ」

のんびりとした声で投げ掛けられた言葉で、神王の無事を知ったルーマスは、安堵の溜息を漏らした。

硝煙を吸い込まないよう、口元に手をやりながら、執務机へと近付く。辿り着く頃には、薄くなった硝煙の中から、急な事態にも平気な顔のゼフィールの姿が、目に入った。

「いったい何があったんですか」

爆発により散乱した数々の書類を拾い上げながら、問い掛ける。

腰を曲げ、続くように書類を拾い始めたゼフィールは、訳が分からないといった表情をして首を傾げてみせた。

「仕事をしていたら、突然に扉が爆発したんですよ」

ルーマスから書類を渡され、拾い終えた分と合わせて机の上に乗せる。床に吹き飛んだ神王のスタンプも拾って、書類の隣に置いた。ゼフィールの言葉に眉をひそめたルーマスが、事態を調べるべく部屋の外へと出ていく。扉の残骸を手探りで調べていれば、アナロ

グ時計のような機械が姿を現した。

「これは…まさか、小型爆弾」

再び爆発する可能性がゼロでない為、慎重に手に取って、ゼフィールの元へと急ぐ。ルーマスの行動を大人しく見守っていたゼフィールは、差し出された小型爆弾を手の中に収めて調べ始めた。「これは天魔国のものですね。自国では製造自体を禁じていますから」

ゼフィールの発言に驚いたように目を見開き、ルーマスは問い掛けた。

「いったい誰が……」

「誰か手引をした者がいるのでしょうか。守護位に大至急、報告を入れなさい。国内の警備を強化するようにと」

淡々と発するゼフィールの声に、驚いている場合ではないと表情を引き締め、ルーマスは返事の代わりに深く頷いてから、部屋を後にした。

平穏な筈の天界を、騒がす事態に発展しそうな出来事に、ゼフィールは深く溜息を吐いた。

「悪いことの予兆でなければ、良いんですが——」

神王に就任してからは、長きに渡って平和だった天界を案じるゼフィールの心境を裏切るように、運命の齒車は回り始めるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7406j/>

エンジェレラ

2010年10月10日03時48分発行